

守山まるごと活性化 議事要旨

会議名: 第4回 A 野洲川河川敷・伏流水再生プロジェクト推進会議

日時: 平成 27年 12月 1日(火) 午後7時30分～9時30分

場所: 中洲会館 2階 大ホール

出席者: 尾村、川中、中島、津田藤、津田昭、森田信、平野、橋本、勝見

出席者(行政): 木村、坪内、高山、館長、会館主事

使用資料: 次第、各自治会作成地図

議題

- ・各自治会伏流水再生水路の計画について
- ・次回の会議について

会議要旨

内容

○各自治会伏流水再生水路の計画について(発表)

- ・各自治会ごとに現状の水路と希望水路を発表。

【新庄】

- ・町内に6本の水路があるが、現状はどこも流れていない。土地改良区からの水が流れてくると、少量流れる。
- ・6本の水路には一部蓋をしているところがあるが、水は流れる。ただし、3つの分岐点において、水の流れを調整する仕組みが必要。分岐点の課題を解決して、6本の水路を流したい。
 - 分岐点A: 流れる方向を変えるため、現状流水方向への堰の設置と希望流水方向への高さ調整が必要。
 - 分岐点B: 流れる方向を変えるため、堰が必要。希望水路は暗渠の中を通るが、公園の部分になっているので、砂が溜まっている。
 - 分岐点C: 流れる方向を変えるため、2箇所に堰の設置と、高さ調整が必要。
- ・水を流すには、新しい水源が必要。畑かんでは能力が低いため、北流の土地改良区から水をもらえないか。
- ・下流では、魚が泳げるよう、堰を設置し、水を張れる状況にしたい。
- ・一度、水を流してみたい。

【服部】

- ・昔、水源地であった出湧では、以前開発が行われており、現状は遮水シートが張ってある。
- ・町内には水路溝があるため、出湧から水が出ればほとんどの水路が復活する(大きく3ルート)。中には、水路の高低差が1.5mもあるため、ポンプアップが必要な場所もある(服部の集落内)。
- ・各水路では月2回、畑かんの水が流れる場所があるため、草が生えやすい。底打ちが必要。

(裏面に続く)

決定事項

自治会毎の提案内容については行政が一旦持ち帰りとし、自治会毎の状況も違うこと(更には、中洲においてはそれぞれの河川が独立しており水系の連続性が比較的低いこと)から、今後の議論は、自治会毎に行政と行うこととし、必要に応じて「A野洲川河川敷・伏流水再生プロジェクト推進会議」に報告、情報共有を図る。

次回以降について

野洲川中洲河川公園の現状を行政から聞き、活用について検討していく。

・次回は2月9日(火)19:30～

会議要旨

内容

【幸津川】

- ・現状の水源地は畑かんと下新川神社裏の水路。
- ・下新川神社内の池は恐らくポンプアップで水をあげており、池内に腐葉土が溜まり、水嵩は浅い。下新川神社裏の水路は、神社の手洗い水が流れている可能性がある。
- ・集落南部に新しく水源地を設けることで、集落西部から北部にかけての水路が復活する。この場所は、おそらく新庄の大川とつながっている。
- ・公園の前に、船着き場の石碑がある。昔、水路を使って町内を行き来していた名残。

【小浜】

- ・幸津川と同じく、昔、集落内を水路を使って行き来していた。今は水路のほとんどを暗渠にしている。
- ・集落北東部に水路は残っている。水はほとんど流れていない。また、集落西部にも水路溝は残っている(ショウスイコウ)。ここも水が流れれば良いと思う。
- ・水源地は未定。

【立田】

- ・水源は、農事用ポンプが2箇所、非農事用ポンプが2箇所の計4箇所。
- ・農事用ポンプからの水は川にも流している。金気が強く、ポンプが傷みやすい。経費もかかる。市からの補助金(電気代)あり。
- ・ちりんさん(非農事用)は2～3時間/日流している。
- ・川の世話は、自治会で水理委員を2名任命しているが、そこまで役はできていない。

《環境政策課より》

- ・金気が強いのは、中洲全体のこと。唯一、服部で100m掘って綺麗な水が出ている(既存の井戸)。
- ・立田と幸津川の調査は11月30日で一旦終了。電気代がネックになっている。立田…雨が降るとちりんさんに溜まる。幸津川…流せない状況があるが、3～5cm流れる。
- ・新しく水源を得るには、既存の井戸の周辺を掘るのが可能性が高い。新しい井戸を掘って水源を得るのは難しい。
- ・「まるごと活性化」の議論については、地域の資源を活かした活性化を地球が主体となり行政と連携して進めるもの。このため、新たな地下水源確保等を前提にするのではなく、既存水源を活用する範囲で検討を願うよう要請。

《尾村リーダー》

- ・水が流れていない中で、水辺に親しむまちづくりをするのは難しい。水を流すための調査をしてほしい。既存水源では限界がある。
- ・新庄には畑かんがあるが、川に一定に流すまでの能力はない。

なお、自治会毎の提案内容については一旦持ち帰りとし、自治会毎の状況も違うこと(更には、中洲においてはそれぞれの河川が独立しており水系の連続性が比較的低いこと)から、今後の議論は、自治会毎に行政と行うこととし、必要に応じて「A野洲川河川敷・伏流水再生プロジェクト推進会議」に報告、情報共有を図る。